

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科			
科目名称	メディア論					授業形態	授業形態	講義			
科目コード	750017	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○		○
担当教員名	外前田 孝							ICT活用	○		○
授業概要	<p>宮崎県の地方紙、宮崎日日新聞社に2021年3月まで35年間勤務し、丸30年を記者として過ごした経験に基づき、授業を展開したい。</p> <p>授業のコンセプトは「新聞を丸ごと体験しよう」。新聞の役割、記事の内容、読み方、取材の仕方、記事の書き方を一通り学んだ上で、実際に取材から記事の執筆までを体験してもらう。これらを通して、フェイクニュースが飛び交い、デジタル化が進む多様なソーシャルメディア時代における新聞の役割と存在意義について認識を深めてもらう。</p>										
関連する科目	時事問題研究、社会学、日本国憲法、経済学、倫理学、環境問題入門										
授業の進め方と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、レジュメを作成し、必要な資料もコピーする。 ・ パワーポイントを用いながら、学生との対話も重視する。 ・ 取材体験を取り入れ、人物ルポを書いてもらう。 										
授業計画【第1回】	自己紹介+概論 「新聞とは何か」について、その歴史的沿革や現在の業界の状況も含めて解説する。										
授業計画【第2回】	「新聞の読み方」 日本の新聞の建てページ(面構成)、記事の特徴、地方紙と全国紙の違いなどを解説しながら、新聞をどう読んだらいいのかについてアドバイスする。										
授業計画【第3回】	「時事問題を考える」 いま注目されるニュースを取り上げながら、時事問題を学ぶ大切さ、自分たちがどんな時代に生きているかについて一緒に考えたい。										
授業計画【第4回】	「敬愛するジャーナリスト」上 私が実際に出会い、そして敬愛してやまない現代のジャーナリストたちの人物像や記事、功績を2回に分けて紹介・再評価する。前半は深代惇郎(朝日新聞コラムニスト)、斎藤茂男(元共同通信編集委員)、黒田清(元大阪読売社会部長)を取り上げる。										
授業計画【第5回】	「敬愛するジャーナリスト」下 私が実際に出会い、そして敬愛してやまない現代のジャーナリストたちの人物像や記事、功績を2回にわけて紹介・再評価する。後半は辺見庸(元共同通信編集委員)、斎藤貴男(フリージャーナリスト)、川原一之(記録作家)、福岡賢正(元毎日新聞編集委員)などを取り上げる。										
授業計画【第6回】	「私の連載記事」上 私が宮崎日日新聞に連載した記事(ルポルタージュ)を紹介しながら、日々のストレートニュースでは伝えきれない「現象の掘り下げ」という作業の大切さを2回に分けて伝えたい。前半は「暖流家族」「競争・格差社会の死角」「ロキシーヒル便り」ほか。										
授業計画【第7回】	「私の連載記事」下 私が宮崎日日新聞に連載した記事(ルポルタージュ)を紹介しながら、日々のストレートニュースでは伝えきれない「現象の掘り下げ」という作業の大切さを2回に分けて伝えたい。後半は「在宅ホスピスの実際～友井絹子さん さだまさしコンサートに行く」「屈せざる魂」ほか。										
授業計画【第8回】	「社説を読もう」 「新聞の顔」と呼ばれる各社の社説を読み比べる。										
授業計画【第9回】	「コラムを読もう」 深代惇郎の「天声人語」など名物コラムを鑑賞する。										
授業計画【第10回】	「文章の書き方」 いい文章、分かりやすい文章はどのようなもので、どうすれば書けるのか。これまでの記者体験で学んだことを開陳したい。										

授業計画【第11回】	「取材体験」上 受講生同士2人一組になって、互いのこれまでの人生、生き方を取材(聞き取り、メモ)する。
授業計画【第12回】	「取材体験」下 11回目の続き。お互いを取材し合う。
授業計画【第13回】	「記事を書く」上 取材したメモを基に人物ルポを書く。追加取材で聞き漏らしたりことを聞く。
授業計画【第14回】	「記事を書く」下 13回目の続き。人物ルポを完成させる。
授業計画【第15回】	「発表」 自分の書いた人物ルポをみんなの前で読み上げ、感想など述べ合う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を日々読む習慣を身につけて慣れ親しんでもらう。それによって自分たちの暮らす社会でいま、何が起きているか、政治や経済はどのような方向に進んでいるのか、そして新聞の役割を知り、ニュースを見る目と判断力を養う。 ・取材体験と記事(ルポ)執筆を通して、取材・記事作成の楽しさ、難しさを知り、文章力向上につなげる。 ・新聞メディアが国民の「知る権利」に応えることで民主主義社会の土台を形成していることにも認識を深めてもらう。
学位授与の方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	とにかく日々の新聞を読んで、新聞とはどんな構成・構造になっていて、どんな記事が掲載されているか、ニュースの価値はどんなふうになっているかを事前に把握する。また、メディアに関する記事や書籍も積極的に読むことを心掛け、新聞とSNSとの情報の違いも認識する。 取材体験の前は、どんなことを聞くかをメモする。執筆に際してはどんな構成にするかを事前に構想する。
授業時間外学習【復習】	授業で配布したレジュメ、資料を帰宅後もう一度読み返す。 取材体験後は聞き漏らしたことを整理する。
課題に対するフィードバック	授業中に作成した記事(人物ルポ)は打ち返し、どこが不足しているか、どんな構成にしたらいいかなど具体的にアドバイスする。
評価方法・基準	授業中に作成した記事(人物ルポ)、試験のレポート
テキスト	日々の新聞(できたら読みたい新聞を半年間だけでも購読)。ネットニュース。
参考書	『事実が「私」を鍛える』(斎藤茂男、太郎次郎社)、『メディアの罫』(青木理ほか、産学社)、『深代淳郎の天声人語』(朝日新聞社)、『天人～深代淳郎と新聞の時代』(後藤正治、講談社)、『振り返れば未来 山下惣一聞き書き』(佐藤弘、不知火書房)『もの食う人びと』(辺見庸、角川文庫)、『カルト資本主義』(斎藤貴男、ちくま文庫)、『口伝壱焼き谷』(川原一之、岩波新書)、『文章の書き方』(辰濃和男、岩波新書)、『ショック・ドクトリン ナオミ・クライン』(堤未果、NHK出版)、『社会学入門』(見田宗介、岩波新書)
備考	